

2013
第31期

Business
Report 2013.1.1-2013.12.31

株主 通信



Inspiration for Life Science

特集

がん幹細胞
～がんの根治に向けた新たな研究～



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

世界のライフサイエンス研究を支援する専門商社

創立30年の、その先の未来へ向けて、 さらに頼れるパートナーを目指

私たちは、世界中の優れた試薬や機器を“探索”し、それを分かりやすい“情報”として提供し、独自の“物流”網で迅速・的確に研究者にお届けするという、商社機能の充実に日々努めています。そして、この元来の強みに加え、新たな強みとしてメーカー機能を備え、事業を拡大してまいりました。私たちは、自ら製品を開発し、解析等の業務支援サービスを提供することで、今後さらに、研究者の多様なニーズに対応するよう努めてまいります。

1983

丸善石油バイオケミカル(株)設立

1986

コスモ・バイオ(株)に社名変更

2000

MBO*により
コスモ石油(株)から独立

*: マネジメント・バイアウト

2004

JASDAQ証券取引所に上場
Cosmo Bio USA, Inc.設立
(米国カリフォルニア州)

2005

(株)プライマリー

2006

2010



します。

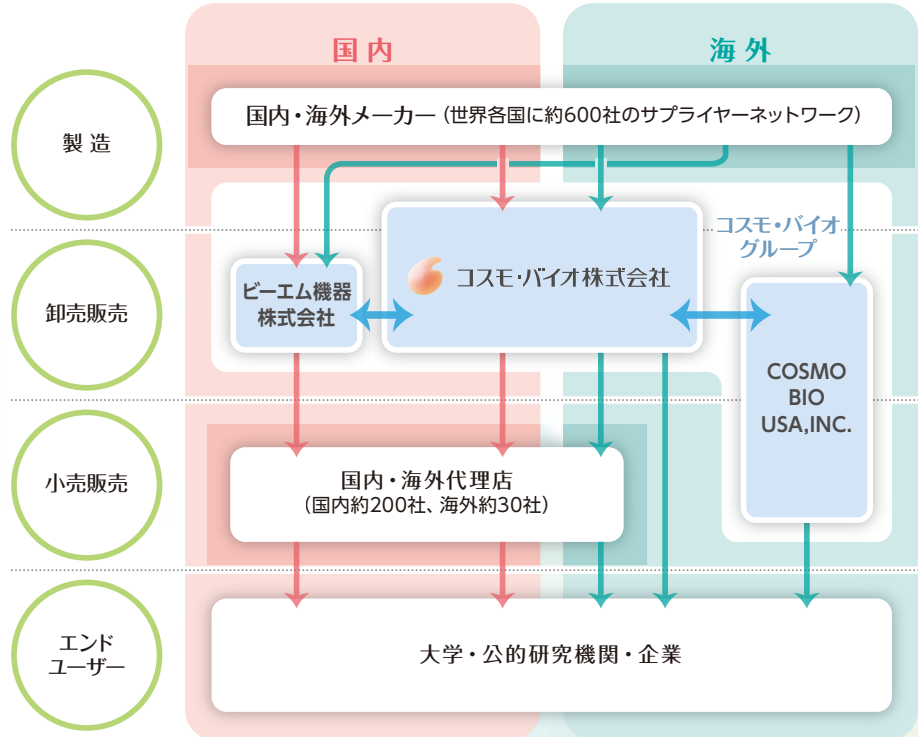
2013

(株)プライマリーセルを吸収合併

ビーエム機器(株)を子会社化

セルを子会社化

コスモ・バイオグループのビジネスモデル



コスモ・バイオの中期的な取り組み

成長と信頼の研究支援会社の実現

顧客満足度の追求

顧客が満足する商品のラインアップ

役に立つ情報の提供

業容の拡大

シェア拡大

海外事業の強化

成長投資

経営基盤の安定化

「成長と信頼の研究支援会社の実現」に向け

Q 当期(2013年12月期)の連結業績は
いかがでしたか?

A 厳しい市況の中、試薬は健闘したものの
機器が大幅に落ち込み、減収減益となりました。

再生医療やiPS細胞など一部の研究分野を除き、大学・公的研究機関では予算執行への慎重姿勢、民間企業では研究テーマの絞り込みなど、市場全体は引き続き活発さを欠く状況で推移しました。そうした中で、試薬、臨床検査薬の販売は健闘し、ほぼ前期並みの実績を上げることができましたが、機器の販売は大幅に落ち込みました。また、為替レートが急激に円安となったことも影響し、その結果、当期の連結業績は、誠に遺憾ながら、売上高が前期比2.6%減、営業利益が同66.0%減、経常利益が同44.5%減、当期純利益が同23.9%減となりました。

Q 当期までの3カ年の取り組みの
成果を教えてください。

A “研究支援”という使命を基礎に、中長期的な
成長のための基盤整備に注力しました。

2011年度から2013年度の3カ年は、中長期的に事業規模を拡大していくための基盤づくりを行い、一定の成果を

得たものと考えております。

当社グループの使命は、ライフサイエンスの基礎研究の分野で、研究活動に必要なモノや情報を研究者に提供し、“研究者を強力に支援”することです。そのため、まず当社グループの本業である“商社”としての機能の強化に努めました。商品の探索力の強化を推し進めた結果、この3年間で約100社に及ぶ新たな仕入先メーカーを世界中から獲得することができました。情報提供面では、400万品目を超える商品の中から研究者が必要とするものを短時間で見つけ出すことができる検索システムを更新するなど、利便性の向上を図りました。また、物流の正確性・迅速性の更なる向上を目指して、物流センターの移転と物流システムの刷新を実施しました。海外ビジネス展開については、海外販売代理店を倍増させると同時に、関係強化策にも努めました。

A 特に、“メーカー機能”の強化に努め、
独自の“研究支援”体制の整備を進めました。

研究者が求める幅広い支援ニーズに少しでも多く、また深くお応えしていくために、商社機能では実現できない部分を、メーカー機能を充実させていくことで埋めていく取り組みを進めました。2013年度は、子会社でメーカー機能を担う(株)プライマリーセルを吸収合併し、プライマリーセル事業

、“基本”を大切にした経営を押し進めてまいります。

部として、開発から製造、販売までの一気通貫の体制を築きました。有望分野の一つとして注力してきた「細胞関連」の事業は、ここが中心となって行っており、自社開発の製品・サービスは次第にその幅を広げております。また、外部の研究機関等との間でも独自の共同研究を進め、コスモ・バイオブランド製品として販売しております。

Q

2014年度からの戦略展開と展望をどのようにお考えですか。

A

前3カ年に築いた基盤を活かして、“基本”を重視した経営を行ってまいります。

2014年度からの3カ年は、「成長と信頼の研究支援会社の実現」をテーマに掲げております。前3カ年に築いた経営基盤を活かしながら、成果に結び付けていきたいと考えております。もう一度、研究者にとっての「頼れるパートナー」とは何か、という視点に立って、私どもの商品・サービスが研究者のニーズに合致しているかというところに立ち返り、商品・サービスの強化、顧客・代理店との関係強化を図ってまいります。

この“基本”を大切にした経営に徹することで、これからの3年間は、「顧客満足度の追求」、「業容の拡大」、「経営基盤の安定化」に、重点的に取り組んでいきたいと考えております。

A

中長期的に「コスモ・バイオ」の存在価値を高め、企業価値の最大化に努めてまいります。

そして、中長期的には、「コスモ・バイオ」の存在価値をもっともっと高めていきたいと考えております。たとえば、「これはコスモ・バイオに聞けばわかる」というような、存在感のある会社です。

そのためには、業容も拡大していかなければなりません。中長期的には、連結売上高100億円の大台を、できるだけ早い段階で超えていきたいと考えております。

今後も成長が期待されるライフサイエンス業界において当社グループは、確かな存在感を持った専門商社としての地位を築き、企業価値の最大化を図ってまいります。株主の皆様には、今後の当社の取り組みにご期待いただきますとともに、引き続きご支援ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

代表取締役社長
笠松 敏明

特集：がん幹細胞 ～がんの根治に向けた新たな研究～

「がん幹細胞」の撃退により、根治（再発・転移を根絶）の期待がふくらんでいます。

近年、がん（悪性腫瘍）の再発や転移に深く関わっていると考えられる細胞が発見されました。「がん幹細胞」です。これによって“がん研究”はさらに加速し、“がんの根治”に向けた治療法の開発が大いに期待されています。

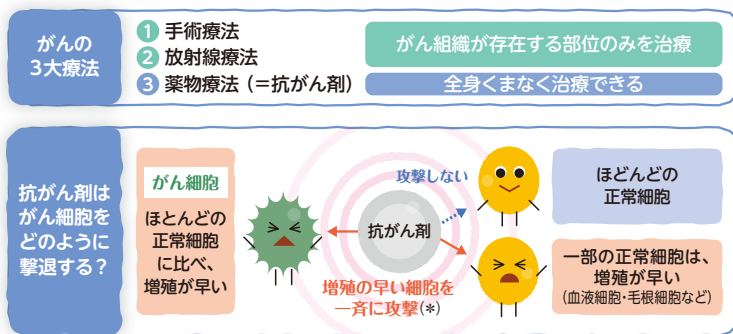


日本人の2人に1人が発症すると言われてるけど、そもそも、がんってどんな病気？

がんは、**遺伝子の異常によって生じる病気**です。社会の高齢化に伴ってがん患者数は今後も増加が予想されています。

現在、がん治療には右の3つがあります。代表的な治療法である抗がん剤は、“**がん細胞**=増殖が早い”という特性を利用して、増殖の早い細胞だけを攻撃することができます。

日本では、**がんの研究が盛ん**に行われており、未解明の部分が次第に明らかになってきています。



*:これが副作用の原因



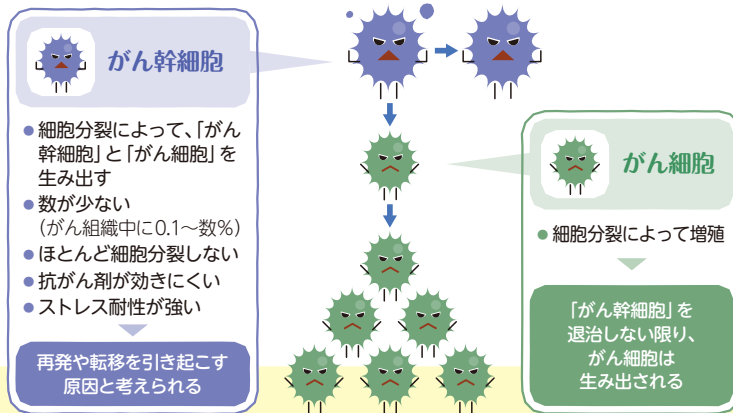
「がん幹細胞」の発見って、そんなにすごいことなの？

がん組織の中に、急速に増殖する**がん細胞**以外に、一見眠っているような細胞が発見されました。この細胞は、右のような特徴を持った**がん幹細胞**であることがわかってきました。**がん細胞を生み出している“がんの根源”**の発見です。

がん幹細胞は**がん細胞**と性質が異なるため、抗がん剤の効果があまり見込めません。そこで、**がん幹細胞**を標的とした新たな治療法が盛んに研究されています。

「幹細胞」って何？

通常の細胞は細胞分裂によって同一の性質を持つ細胞しか生み出さないが、幹細胞は、さまざまな細胞に分化できる能力(分化多能性)と、分裂を経ても分化多能性を維持できる能力を持つ。

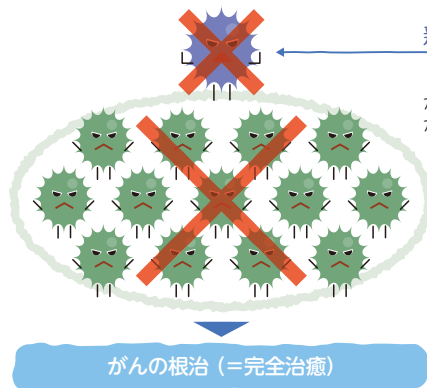




「がん幹細胞」の撃退法が見つければ、がんは不治の病ではなくなるってこと？

がん幹細胞の発見以来、がんの根治の研究が世界中で非常に活発に行われています。中には、5年から10年でがん幹細胞を撃退する治療法の実用化を示唆する研究者もいるほどです。

新しい治療法が確立されれば、再発や転移に苦しむ患者さんの数も劇的に減少し、やがて日本人の死因“第1位”、“不治の病”といったレッテルが過去のものとなる日も、そう遠くないのではないのでしょうか。



新しい治療法によって 「がん幹細胞」を撃退!

がん細胞を生み出す根元がなくなることで、がん細胞の増殖は止まり、再発や転移の心配もなくなる

従来の治療法によって 「がん細胞」を撃退!

- 抗がん剤
- 放射線療法 など

がん幹細胞を撃退する、代表的な研究をひとつ紹介します



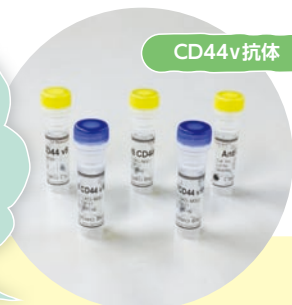
身近な薬が、がん幹細胞の撃退に効果を発揮することを発見。臨床試験もスタート!

がん幹細胞は、酸化ストレスや抗がん剤治療に対して高い抵抗力を持っています。これは、がん幹細胞の表面タンパク質「CD44v」がシスチントランスポーター「xCT」(抗酸化物質の元を取り込むポンプ)を安定化させ、この働きによってがん幹細胞内に抗酸化物質が蓄積しているからだとわかってきました。この「xCT」の働きを阻害する薬として、関節リウマチや潰瘍性大腸炎などに使用されているスルファサラジンが知られています。これを用いた動物実験を行った結果、腫瘍形成が抑制され、抗がん剤に対する感受性が高まりました。現在、スルファサラジンを用いた臨床試験がスタートしています。



コスモ・バイオは、「がん幹細胞」の研究に役立つ試薬を持っているの？

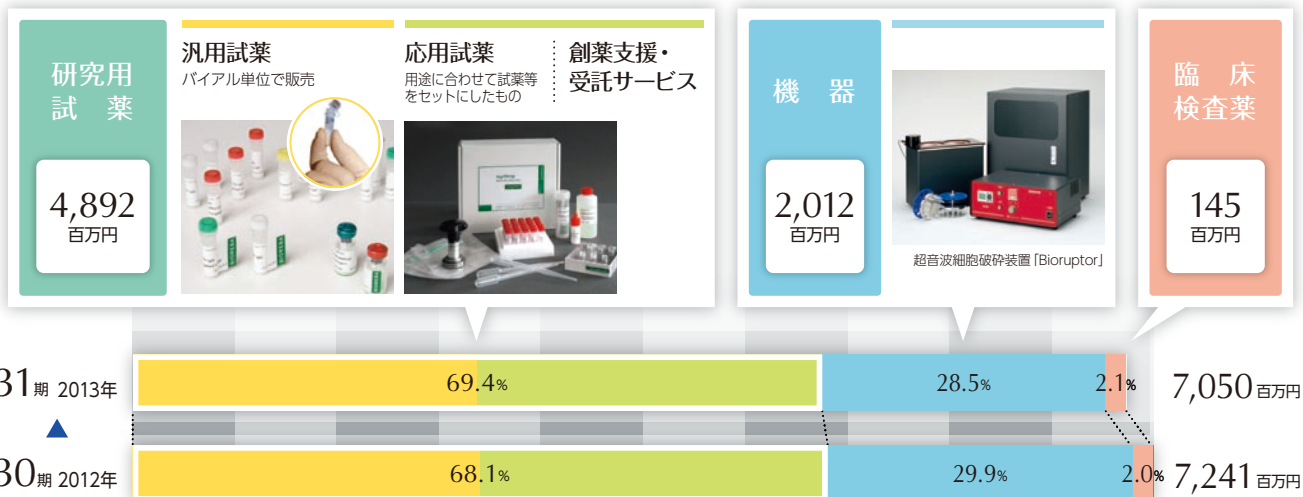
がん組織中に微量しか存在しないがん幹細胞を集めることが研究の第一歩。これがコスモ・バイオの試薬で簡単に! 更に便利な試薬も開発中!



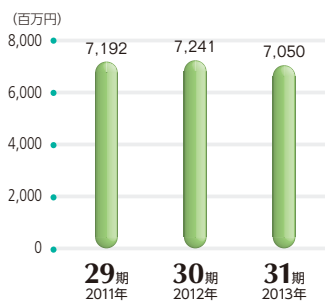
「CD44v」は、がん幹細胞の識別にマーカーとして役立っています。コスモ・バイオでは、昨年より「CD44vを識別する抗体」を世界に先駆けて販売し、大変ご好評いただいています。この試薬を使って、がん幹細胞を識別し「セルソーター(細胞を生きのまま回収できる装置)」で、がん幹細胞を集めることができます。この試薬によって、がん幹細胞に対する治療薬開発やがんの基礎研究の進展が期待されています。

業績・財務のご報告（連結）

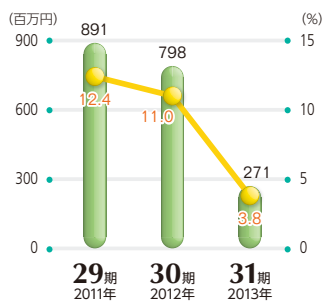
商品分類別連結売上高



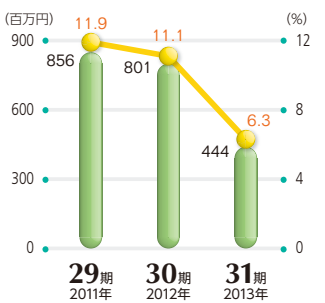
売上高



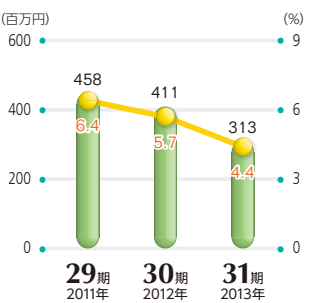
営業利益 / 営業利益率



経常利益 / 経常利益率



当期純利益 / 当期純利益率



営業の概況

ライフサイエンス研究に対する社会の関心は高い傾向にあります。大学・公的研究機関は予算執行に慎重であり、また、民間企業では引き続き研究テーマの絞り込みが見られ、市場は全体として弱い動向となりました。一方、当期の平均為替レートは96円/ドル（前期は79円/

ドル）でした。

こうした厳しい状況下、販売促進に努めたものの売上高は前期比2.6%減となりました。利益面では、販管費の節減に努めたものの、円安傾向を受けて仕入コストが上昇し、営業利益は同66.0%減となりました。

▶ 連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

| | 前期 2012年12月31日現在 | 当期 2013年12月31日現在 |
|-------------|---------------------|---------------------|
| 流動資産 | 5,413 | 5,527 |
| 固定資産 | 1,541 | 2,750 |
| 資産合計 | 6,955 | 8,277 |
| 流動負債 | 916 | 818 |
| 固定負債 | 317 | 660 |
| 負債合計 | 1,234 | 1,479 |
| 株主資本 | 5,192 | 5,386 |
| その他の包括利益累計額 | 37 | 924 |
| 少数株主持分 | 490 | 486 |
| 純資産合計 | 5,720 | 6,797 |
| 負債純資産合計 | 6,955 | 8,277 |

▶ 連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

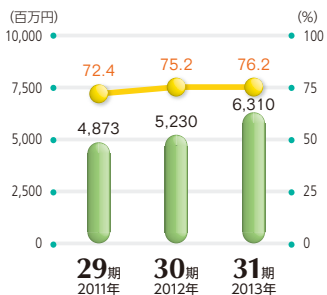
| | 前期 2012年1月1日~ 2012年12月31日 | 当期 2013年1月1日~ 2013年12月31日 |
|-------|---------------------------------|---------------------------------|
| 売上高 | 7,241 | 7,050 |
| 売上総利益 | 3,184 | 2,620 |
| 営業利益 | 798 | 271 |
| 経常利益 | 801 | 444 |
| 当期純利益 | 411 | 313 |

▶ 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

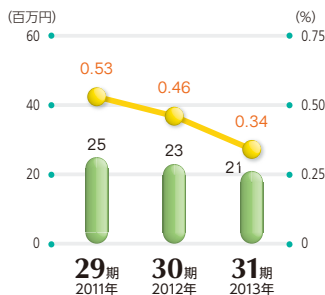
(単位:百万円)

| | 前期 2012年1月1日~ 2012年12月31日 | 当期 2013年1月1日~ 2013年12月31日 |
|------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 347 | 126 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 167 | △ 99 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 126 | △ 126 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,532 | 1,435 |

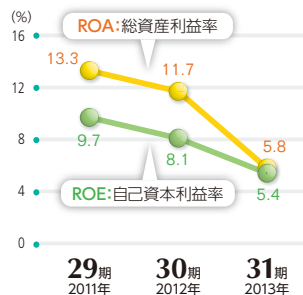
自己資本/自己資本比率



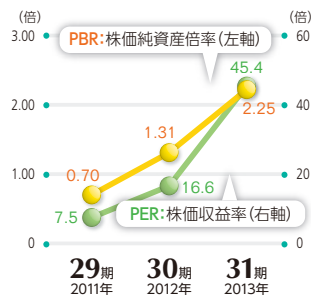
有利子負債残高/有利子負債比率



ROA / ROE



PBR / PER



(注) 株価は各12月期の末日終値

財務の
状況

当社は、財務の健全性確保に努めております。その他有価証券評価差額金が836百万円増加したこと等から自己資本が増加し、当期末の自己資本比率は前期末比1.0ポイント向上し76.2%となりました。また、自己資本に占める有利子負債の割合を示す有利子負債比率は0.34%

と極めて低い水準にあります。

なお、当期末の総資産は、2013年6月に上場した会社の株式について時価による評価を行ったこと等から投資その他の資産が増加したことを主な要因として、前期末比1,322百万円増加しました。

トピックス

1 **プロテインテック社と 国内独占販売代理店契約を締結**

当社は2014年2月より、米国プロテインテック社の製品を日本国内で独占販売しています。プロテインテック社の抗体は、高品質で製品ごとに検証データが公開され、世界中の研究者から高い評価を得ています。様々なライフサイエンス研究分野の研究者にご使用いただいております。



プロテインテック社の商品

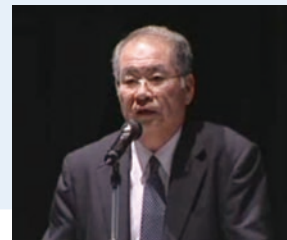
2 **「個人投資家向け会社説明会（大阪）」 を開催**

2013年10月に、大和インベスター・リレーションズ主催の「大和IRコンファレンス・大阪」にて会社説明会を行いました。

当社ウェブにて、説明会の資料およびQ&Aがご覧いただけます。

ホーム > IR情報 > 個人投資家向け会社説明会

<http://www.cosmobio.co.jp/ir/individual/>

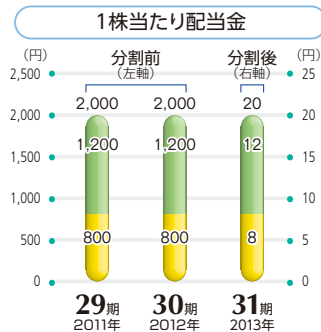
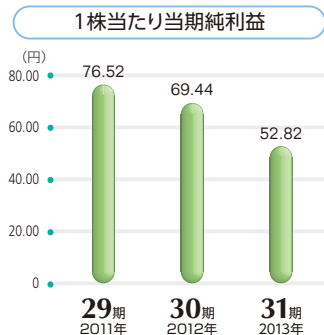


▶ 「個人投資家向け会社説明会」実績



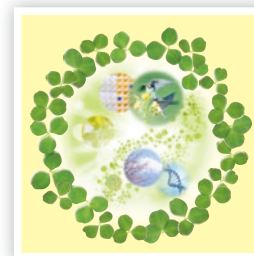
株主の皆様への利益還元について

当社では、当社の株式を長期的かつ安定的に保有していただくため、安定配当に努めております。当期の配当は前期と同様に、1株当たり中間配当8円、期末配当12円、年間配当20円とさせていただきます。この結果、連結配当性向は37.9%となっております。



(注) 2013年1月1日付にて、当社普通株式1株を100株に株式分割したことに伴い、1株当たりの当期純利益については、当該株式分割が第29期の期首に行われたと仮定して遡求修正しております。

表紙について



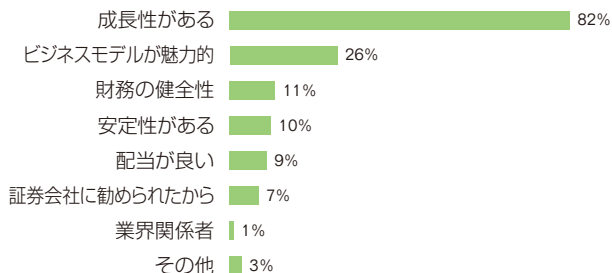
地球が育んでいる無数の生命体。私たちコスモバイオは、その一つひとつに秘められた無限の可能性を最大化させることで、人と科学のステキな未来へつなげていきます。今回の表紙は、数あるクローバーの中から四葉のクローバーを“探し当てる”ことを、ライフサイエンス研究の姿勢に重ね、表現しています。

株主様アンケートのご報告

アンケート結果の詳細は、当社ウェブに掲載しています ▶ <http://www.cosmobio.co.jp/ir/report2014/>

第31期第2四半期株主通信において、第2回目となる株主様アンケートを実施させていただいた結果、267名の株主様よりご回答をいただくことができました(回答率3.9%)。皆様の貴重なご意見を参考にさせていただきながら、今後のIR活動の一層の充実と、積極的な経営による成長の持続を図ってまいります。

▶ 当社株式の保有理由(複数回答あり)



▶ 株主の皆様のお声の一部

- 基礎研究の積み重ねが将来への芽になると信じている
- これからの企業として業界のトップを目指してほしい
- 次世代を育てる「公開講座応援団」の取り組みが素晴らしい
- 再生医療及び生活習慣病に関することに興味があるので期待している
- 円安が進んでも収益が拡大するような事業モデルを構築してほしい
- 株価が上がるように努力してほしい
- 重点戦略を着実に進めるとともに株主還元も充実させてほしい
- iPS細胞を利用した事業の推進に期待している
- 医療の発展に寄与するよう期待している

株主の皆様のお声から、関心の高かった内容についてご紹介します。

NEW

プライマリーセル事業部で開発した新製品について

プライマリーセル事業部ホームページ

<http://www.primarycell.com/>

プライマリーセル事業部では、2013年12月に「**GIST-T1細胞培養キット**」を新商品として発売しました。

胃がんや大腸がんなど、いわゆるふつうの消化器がんは粘膜から発生しますが、この粘膜の下の筋肉細胞が、がん化したのがGIST*(消化管間質腫瘍)です。GISTは、非常にまれな病気で10万人に2人くらいの割合で発生しています。

「**GIST-T1細胞培養キット**」は、ヒトGIST組織から樹立した新規のGIST-T1株化細胞の培養キットです。当社は、本製品を通じて、GISTの病態解明や創薬研究に貢献してまいります。

*GISTはGastrointestinal stromal tumorの略です。



その他の
新製品

- マウス破骨細胞培養キット
- ラット小型肝細胞培養キット

会社概要

(2013年12月31日現在)

商号 コスモ・バイオ株式会社
 設立 1983年8月25日
 所在地 〒135-0016
 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 資本金 918百万円
 事業内容 ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、
 臨床検査薬の仕入れ(一部自社製造)及び国内・海外販売
 従業員数 連結:124名 個別:89名

役員

(2014年3月25日現在)

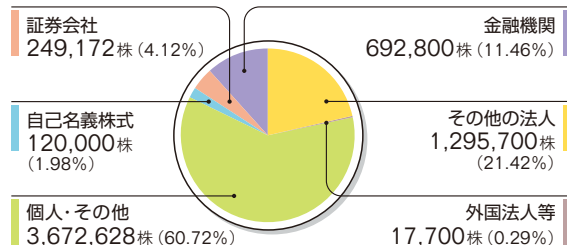
代表取締役社長 笠松 敏明
 専務取締役 櫻井 治久
 取締役 世良 伸也
 取締役 牧 与志幸
 取締役 島村 和也*
 常勤監査役 中野 重則*
 監査役 佐々木 治雄*
 監査役 深見 克俊* ※は社外役員

株式の状況

(2013年12月31日現在)

発行可能株式総数.....18,361,600株
 発行済株式の総数
 (自己株式120,000株を含む).....6,048,000株
 株主数.....6,690名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

| 株主名 | 持株数(株) | 議決権比率(%) |
|--|-----------|----------|
| 東京中小企業投資育成株式会社 | 1,152,000 | 19.43 |
| みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 コスモ石油 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社 | 576,000 | 9.72 |
| コスモ・バイオ従業員持株会 | 203,500 | 3.43 |
| 田中 知 | 148,000 | 2.50 |
| 高木 勇次 | 148,000 | 2.50 |
| 原田 正憲 | 114,500 | 1.93 |
| 新日本空調株式会社 | 78,300 | 1.32 |
| 太田 由喜夫 | 76,100 | 1.28 |
| 鈴木 由美子 | 76,000 | 1.28 |
| 日本証券金融株式会社 | 70,700 | 1.19 |

(注) 議決権比率は、自己株式120,000株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 定時株主総会 毎年3月開催 同お問合わせ先 同証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 基準日 12月31日 公告方法 Tel. 0120-232-711
 剰余金の 6月30日、12月31日 電子公告 <http://www.cosmobio.co.jp/>
 配当の基準日 (ただし、電子公告によることができない事故その他
 やむを得ない事由が生じた場合は、東京都において
 発行する日本経済新聞に掲載して行います。)
 単元株式数 100株 上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQ スタンダード
 証券コード 3386



株式に関するお問い合わせ先 → 住所変更等、株式に関する手続き・お問い合わせは、お取引の証券会社へお願いいたします。



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

〒135-0016
 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 Tel. 03-5632-9600 Fax. 03-5632-9613